

行仙宿巡回整備と雨戸の荷揚げ

◇実施日：2020年8月9日（日）晴

◇参加者：沖崎吉信、濱野兼吉、橋本梓、児嶋道夫、山川治雄・自知、岩本信行、中前偉、畑林清子、大江加予子、生熊千満子、高階美根子、梶野照雄、瀧本昭太郎、越野智子（檀原市）

15名

先週の持経宿・平治宿の巡回整備に続いて今回は行仙宿のお盆御供取替と川島前代表の一周忌供養をメインに準備を整えたが、先日から打合せ、発注を重ねてきた行仙宿小屋の雨戸が完成したとの連絡があり、その荷揚げも同時に行うことになった。

幸い15名の参加を頂くことが出来たので、荷揚げに支障はない。児嶋さんにトラックを提供していただき、前日に完成した雨戸を積み込む。

当日、午前9時登山口に全員が揃った。

荷揚げする雨戸は全部で9梱包（シャッターと横枠は2mを越す長尺物）とアルミ格子が一つ、山川さん提供の足場板（4m×2本）とお供え物などである。

モノレールの荷台長は2.2m弱だが長尺物は20cmほどはみ出す。積み方を工夫してロープで固定。4mの足場板は第二便で運ぶこととして梶野、児嶋の2名でスタートした。



本日の荷揚げ品



モノレールに積込む



担いで運ぶ

第一便のモノレールが戻ってくる間に、久々参加の越野さんの紹介や、本日の作業内容の説明を行った。無理するな、安全第一に加えて今日も暑いので十分な水分の補給などの対策をお願いした。



足場板は手に持って



休憩中



管理棟に収納

モノレール第二便に残りの荷物を積みこんで登り始める。川島前代表死去現場に全員が揃った。早いもので、あれからもう一年がたった。各々が線香を手向け、中前君導師で手を合わせて追悼した。現場に立っているプラスチックの供養板は今年の8月13日に児嶋さんが急遽作られたもので「川島、長い間ありがとう。安らかに眠ってください」と記載されている。今般児嶋さんから、一年経過したことだし、プラスチック板にマジック書きが気になるので木製に取り替えてくれ、との要望があった。

川島前代表の慰霊を終えてモノレール終点に全員終結、さあ荷揚げだ。女性陣には軽くて持ちやすいものを分担していただき、残りの長尺物6個とアルミ格子、中前君寄贈のテレビモニターとレコーダーを男性陣が分担して荷揚げする。



工事スペースを確保

水場は涸れる寸前

昼食

シャッターは長い上に重いので、2名で一箱を、横枠2箱は一つにまとめて2名で、それぞれ箱の前後に晒で手掛かりを作ってぶら下

げるようにした。昨年11月に浦向道新橋の荷揚げの際、5mの主桁を運んだ経験から一度に全部を運べるかは自信がなかった。

シャッターは岩本、濱野、瀧本、中前の4名で2個。横枠2箱を沖崎、児嶋で運ぶ。アルミ格子は橋本さんにお願ひし、テレビモニター等は梶野君が背負った。4mの足場板は山川さん親子が一枚ずつを運ぶ。これですべての荷物が各々に行き渡った。再び降りてくる必要はなさそうだ。

第2ベンチで瀧本、中前組は「手で下げるより肩に担ぐ方が楽」と雑木一本を切って晒に通して前後で担ぎながら登り始めた。

沖崎、児嶋組は右手で持ったり、左手に替えたりを繰り返し、5回位休憩してやっと行仙宿に到着した。

先着していた岩本、橋本のお二人が降りてきて応援してくださいました。荷揚げした雨戸部材を全て管理棟に収納し、女性陣がお堂の清掃と御供、密を取替。梶野、岩本、濱野の3名はチェーンソーを持って水場径の整備と水場の点検に降りる。残った男性陣で小屋東側の犬走り置かれていた丸太材などを北側に移動し、窓下の作業スペースを確保した。また、北側の奥駆道沿いに積み上げられている丸太を栈木用に縦割りにした。

水場班が小屋に戻り昼食にする。水場は晴天続きのため涸れる寸前とのことだった。

食後は栈木作りの続き、小屋内の清掃、ソーラー発電のチェックなどを行った。

梅雨明けは遅かったが、晴天続きで暑さが厳しく危険な状態、と報道されているので皆さんの体調を心配していたが、行仙宿の標高1,100mでは23℃で、風も少し吹いて心地よかった。



網戸を洗う



丸太を割って栈木に



本日の参加者

今日荷揚げした雨戸の取付工事は9月中旬に予定している。工事には木下棟梁も登ってこられ、取付工事と同時に外壁トタンの補修も行うので、皆さんのご協力をお願いしたい。

(記：沖崎、写真：梶野、中前)

行動タイム

補給路登山口 09：00→10：40 行仙宿 14：10→14：45 補給路登山口